

国庫補助事業の実績に係る 評価について

- 1) 強い農業・担い手づくり総合支援交付金
- 2) 畜産クラスター事業
- 3) 産地パワーアップ事業
- 4) 農畜産物輸出拡大施設整備事業

強い農業・担い手づくり 総合支援交付金事業について

※強い農業づくり交付金事業実績

実施年度	市町名	対象品目	事業内容
平成 28 年度	三豊市	米麦	産地管理施設整備

平成28年度強い農業づくり交付金（産地競争力の強化）実績の概要

市町名	地区名	事業主体	事業実施期間
三豊市	山本・豊中・財田地区	香川県農業協同組合	平成28年度

事業計画の概要

（課題）

三豊市では、従来から良食味米産地として水稻の栽培を行っているが、近年の生育期間中の高温傾向により、主力品種である「ヒノヒカリ」で白未熟粒が多発し、品質低下が問題となっている。また、山間部ではカメムシの多発に起因する斑点米による落等も見られており、病虫害防除の指導を行っているものの、近年は被害の大きい年が増加傾向にある。

さらに麦についても、雑草種子（カラスノエンドウ等）や異種穀粒の混入があり、実需者からのクレームの原因になっており、雑草種子等の除去が必要となっている。

（計画内容）

宝山・豊中カントリーエレベーターに色彩選別機を整備し、白未熟粒や斑点米の除去による米の品質向上や異物等の除去による麦の高品質化を図る。

施設整備計画

整備内容	受益面積 (ha)	受益戸数 (戸)	事業費 (円)	交付金 (円)	事業の内容
産地管理施設の整備 (分析診断施設)	(米) 803ha (麦) 85ha	1,861戸	29,484,000	12,967,000	色彩選別機一式 (処理量 4,200kg/hr)

期待される効果の概要

項目	26年度 (現状値)	28年度 (実績値)	29年度 (実績値)	30年度 (実績値)	30年度 (目標値)	概要
(稲) 1等比率の増加	0.7%	0.6%	35.2%	51.6%	17.5%	1等比率を16.8ポイント増加
(麦) 1等比率の増加	82.0%	100%	100%	64.1%	97.0%	1等比率を15.0ポイント増加

○ 成果目標（30年度）の評価について、水稻については、色彩選別機の導入によりこれまで問題となっていた白未熟粒や斑点米等が除去されたこと、また、栽培指導の徹底により、「1等比率の16.8ポイント増加」の目標に対して50.9ポイント増となり、大きく目標を上回り達成した。

一方、平成30年産の麦については、播種期の降雨により適期の播種ができず、また、収穫期の降雨の影響で品質が低下し、目標年度においては未達成となった。令和元年産麦については栽培期間中の天候に恵まれ、また、排水対策等技術指導により、1等比率については達成が確実となっているほか、収量についても大幅に増加した。

畜産クラスター事業 について

実施年度	市町名	整備内容
平成 27,28,30 年度	高松市	搾乳牛舎、搾乳施設、育成牛舎、 堆肥調整保管庫

平成27、28、30年度畜産競争力強化対策整備事業実績の概要

市町名	地区名	事業主体	事業実施期間
高松市	高松市	香川地域高品質生乳生産協議会（取組 主体：有限会社A）	平成27～28、28～29、30年度

事業計画の概要

（課題）

県内の酪農業は産出額約51億円の重要産業であり、生乳は、県民の健康保全の観点からも重要な品目である。しかしながら農家の高齢化等により飼養戸数は年々減少しており、ここ10年で半減、飼養頭数は3割減となっている。農家戸数の減少は今後も続く見込みであり、生産基盤維持のためには、1戸当たりの飼養頭数の増加が絶対条件となる。このような中、全国的な初妊牛価格の高騰や飼料価格の高止まりもあり、経営が圧迫されていることから、酪農家が牛舎や搾乳施設の新設等に取り組むことは困難となっている。また、畜産においては堆肥の処理の円滑化が必須となっていることから、近隣の耕種農家との連携も課題の一つである。

（事業内容）

- ・有限会社Aが、搾乳牛牛舎、搾乳施設、育成牛舎を新設し、飼養頭数の拡大を図るとともに、生乳の品質向上に取り組む。
- ・また、同社が6次産業として経営するジェラート店における販売額を増加させる。
- ・有限会社Aが堆肥調整保管庫を新設して良質堆肥を生産し、近隣耕種農家へ供給する。

施設整備計画

※添付書類：写真

整備内容	施設面積	事業費 (円)	交付金 (円)	事業の内容
搾乳牛舎 (H27)	3124 m ²	215,610,880	99,819,851	搾乳牛舎 1棟
搾乳施設 (H28)	541.51 m ²	181,436,760	79,039,700	搾乳施設 1棟
育成牛舎・堆肥施設 (H30)	① 1611.68 m ² ② 1629.165 m ²	246,248,640	113,342,000	①育成牛舎 1棟 ②堆肥調整保管庫 1棟

期待される効果の概要

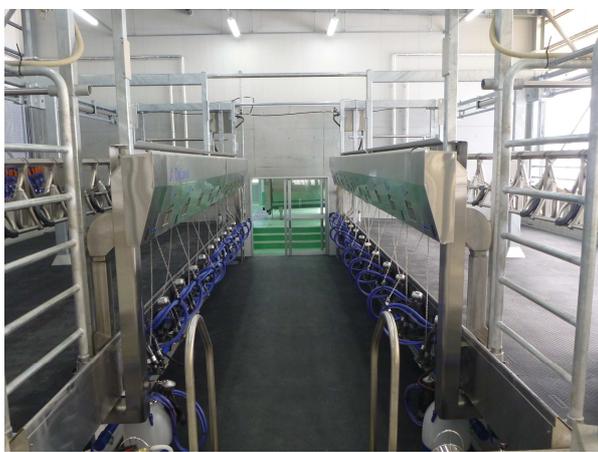
項目	26年度 (現状値)	30年度 (実績)	令和2年度 (目標値)	概要
飼養頭数の増加	120頭	151頭	250頭	(目標) 108%増
生乳生産量の増加	1,040 t	1,463 t	2,375 t	(目標) 128%増
体細胞数定期検査 異常値割合の減少	7/36	0/36	2/36	(目標) 71%削減

乳質ペナルティー の回数の減少	7/120	0/120	2/120	(目標) 71%削減
項目	26年度 (現状値)	30年度 (実績)	令和2年度 (目標値)	概要
WCS作付け面積	0a	18.67ha	17ha	(目標達成率) 110%
国産飼料作物利用	0t	452t	300t	(目標達成率) 151%
堆肥生産量	2,000t	3,000t	3,500t	(目標) 75%増加
堆肥利用農家	50戸	50戸	70戸	(目標) 40%増加
搾乳機器	6頭	10頭	10頭	(目標) 67%増加
搾乳時間	8~10時間	4~5時間	3~4時間	(目標) 50~60%削減

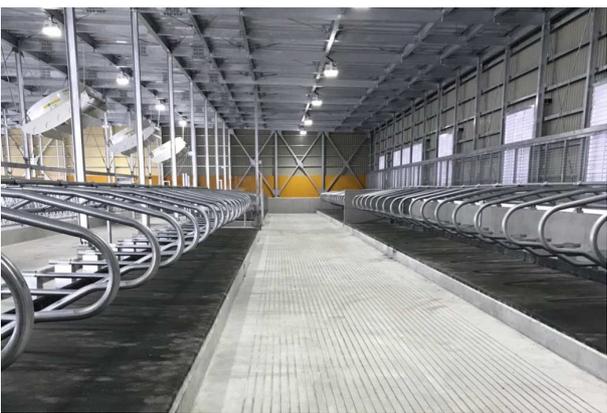
搾乳牛舎



搾乳施設



育成牛舎



堆肥保管庫



産地パワーアップ事業 について

実施年度	市町名	対象品目	整備内容
平成 28 年度	三豊市	柑橘	マルチ栽培用資材
平成 29 年度	観音寺市	レタス	集出荷貯蔵施設

平成28年度産地パワーアップ事業（生産支援事業）実績の概要

市町名	地区名	事業主体（地域協議会）	事業実施期間
三豊市	仁尾地区	ふる一つ物語推進会 (三豊市地域農業再生協議会)	平成28年度

事業計画の概要

(課題)

中山間地域の三豊市仁尾地区は、県内有数のカンキツ産地で、「袋掛け栽培」、「樹成り完熟栽培」などの個性化商材による付加価値販売に取り組んでいる。

この「袋掛け栽培」により生産された果実のうち、糖度や外観など一定の品質基準を満たした高品質な果実は「ふる一つ物語®」の商標で京浜市場を中心に出荷され、有利に販売されており、現在では産地を牽引する商品に成長している。

しかしながら、近年は集中豪雨等の極端な天候により、糖度低下や浮皮等が発生し、「袋掛け栽培」の浮皮が少なく、高糖度である特長が薄れるなど、商品力の低下が問題となっており、産地の収益力強化に向けた対策技術の導入が急務となっている。

(事業内容)

以下のとおり、「袋掛け栽培」において、糖度向上や浮皮軽減などの効果が高く、高品質果実の安定生産が可能な「マルチ栽培用資材」の導入により、販売額の10%以上の増加を実現する。

施設整備計画

整備内容	受益面積 (ha)	受益戸数 (戸)	事業費 (円)	交付金 (円)	事業の内容
マルチ栽培用資材	3.819	12	4,836,886	2,418,443	マルチ栽培用資材 タイベック巻き上げ等1.8ha

期待される効果の概要

項目	27年度 (現状値)	28年度 (実績値)	29年度 (実績値)	30年度 (実績値)	30年度 (目標値)	概要
販売額の増加	357,505 円/10a	458,911 円/10a	423,889 円/10a	459,292 円/10a	393,256 円/10a	10a当たり販売額の10%増加

※販売額の実績値は、実施要領による補正係数を乗じて算出した。

- マルチ栽培用資材の導入により、高品質で有利販売される「袋掛け栽培」の生産が拡大し、10a当たりの販売額は平成30年度（目標年度）において28.5%増加し、成果目標の10%を大幅に上回ることができた。なお、本取り組みは、事業実施年度以降、連続して成果目標を達成しており、安定した増収を実現している。

本取り組みにより、「袋掛け栽培」における「マルチ栽培用資材」の導入の増収効果が実証されたため、ふる一つ物語推進会を中心に、カンキツ産地における同技術の波及が大いに期待される。

平成29年度産地パワーアップ事業 計画の概要

市町名	地区名	事業主体	事業実施期間
観音寺市	豊南地区	香川県農業協同組合	平成29年度

事業計画の概要

(課題)

豊南地区大野原集荷場では、平成10年度に選果・包装ラインを整備し、収穫後の出荷調整作業支援に取り組んできた。近年、農業法人等の担い手によるレタスの作付面積の拡大と共に出荷調整作業支援の利用拡大が進み、出荷のピーク時には、既存の集荷場の処理能力を上回るため、荷受量の制限を課していた。これにより、とり遅れによりレタスの品質低下や圃場廃棄が発生し、所得が下がる問題が生じている。

現状の選果・包装ラインは、形状だけにより規格を判別するため、等階級区分に応じた重量判別は人的な補完を要しており、製品の品質にばらつきが出ている。

(事業内容)

レタスの集出荷貯蔵施設を整備し、支援部門の処理能力強化や、選別精度の向上、荷受量に応じた予冷庫の整備等を行う。これにより、ピーク時の出荷制限を解消し、等階級の測定精度を向上させ、品質の向上・安定化や作付面積の拡大が図られ、レタス産地としての競争力の強化と地域農業の継続的な発展が期待される。

施設整備計画

整備内容	受益面積 (ha)	受益戸数 (戸)	事業費 (円)	助成金 (円)	事業の内容
レタス 集出荷貯蔵施設	作付実面積 206.9 うち 受益実面積 42.3	作付戸数 295 うち 受益戸数 34	481,896,000	221,712,000	集出荷貯蔵施設 建物 1,196.9 m ² 原料置場 197.4 m ² 選果・包装ライン 4ライン 予冷庫 247.4 m ²

期待される効果の概要

項目	27年度 (現状値)	29年度 (実績値)	30年度 (実績値)	31年度 (目標値)	概要
10a当たりの販売額 (単位:円/10a)	703,813	—	561,931*	780,499	10a 当たり販売額の10%以上の増加

※ 平成30年産は、雨天の影響で、9月下旬までの苗の活着不足や倒伏・茎葉の痛み、適度な雨量と気温高で、11月下旬以降は生育の急速な前進による収穫遅延があり、品質の低下が発生した。さらに、全国的な豊作に伴い、11月から2月までの販売単価が大きく安値となり、目標である販売額も低調となった。

今後は、現地での対策として、レタスの生産振興の強化（地域ごとの圃場巡回体制による計画的な作付け・栽培管理の徹底等）、さらに販売力の強化（取引市場との連携強化、事前商談・契約的取引の強化など）に取り組むこととなっており、適切な実施となるよう、県としても、当該取組みを支援していく。

農畜産物輸出拡大施設整備事業 について

実施年度	市町名	対象品目	整備内容
平成 30 年度	さぬき市	水稲	農産物処理加工施設（精米施設）

平成30年度農畜産物輸出拡大施設整備事業実績の概要

市町名	地区名	事業主体	事業実施期間
さぬき市	津田地区	株式会社 A	平成30年度

事業計画の概要

(課題)

海外では、健康志向の高まりにより日本食がブームとなり、日本産米の需要が増加している。日本産米は高価格帯で取引されていることから、品質の高さが求められている。

株式会社 A は、HACCP 認証を取得し、安全な米の輸出に取り組んでいるが、出荷形態についてはほとんどが精米(白米)の状態であり、精米後1ヶ月以上を要して実需者に届く状況のなか、品質の低下が問題となっている。

(計画内容)

真空包装機の導入、選別機能の強化により、安全安心に加えて高品質な商品の提供を行う。また、簡易に利用することができる無洗米商品や、健康食として注目されている玄米商品等を強化し、付加価値のある商品開発に取り組むことで、販路拡大を図る。

施設整備計画

整備内容	事業費 (円)	交付金 (円)	事業の内容
農産物処理加工施設 (精米施設) の整備	68,017,967	31,489,000	選別ライン一式 全自動真空整形装置2台 洗浄排水設備一式

期待される効果の概要

項目	29年度 (現状値)	30年度 (実績値)	元年度 (実績値)	2年度 (実績値)	3年度 (実績値)	4年度 (実績値)	4年度 (目標値)	概要
輸出向け出荷量の増加	77.97t	5.7t	—	—	—	—	400t	輸出向け出荷量 413ポイント増
輸出相手国 (地域)の増加	<u>3カ国</u>	<u>1カ国</u>	—	—	—	—	9カ国 ※	輸出相手国 新たに6カ国開拓

※9カ国 (アメリカ、カナダ、インドネシア、UAE、香港、台湾、マカオ、シンガポール、オーストラリア)

○年度の考え方：前年11/1～当年10/31

○平成31年3月に施設整備が完了し、今年度から本格的に稼働。